

5. 教育業績・FD 委員会^{*1}

守屋 利佳^{*2}（委員長・北里大学医学部医学教育研究部門）

当委員会はいくつの変遷を遂げてきた。18期では教育業績委員会と医学教育専門家制度委員会、FD委員会とがそれぞれ独立していたが、19期・20期では医学教育専門家・業績FD委員会として合体した形であった。21期には医学教育専門家委員会が独立し、再び、教育業績・FD委員会となり、教員の教育能力開発に関する事業を担当している。

21期の委員会の活動目標として、①教育業績評価シート（第18期業績表記委員会作成）のブラッシュアップと活用の推進、②「基礎一般教育系教員のための医学教育ワークショップ（基礎系教員のためのWS）」の企画・運営、③「医学教育者のためのワークショップ」の企画・運営、④新たなFDの在り方の検討を挙げている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため、「医学教育者のためのワークショップ」の実施が危ぶまれた。2020年8月2日に委員会委員および20期および21期学会三役、計12名にてWebによるワークショップトライアルを実施するなど、実施の可能性を探ったが、感染の収束もなく、2020年および2021年の実施を見合わせた。

「医学教育者のためのワークショップ」は、“富士研”の愛称で親しまれ、1974年12月第1回から2019年までで46回開催されており、大学医学部で教育の責任の立場にある方（医学部長や教務委員長など）や臨床研修病院での教育責

任者などが参加してきた。その後、臨床研修の指導医講習会、プログラム責任者養成講習会、実務実習認定指導薬剤師養成WS、各大学での教員FDなどにも影響を与えたWSで、文部科学省・厚生労働省と共催していることもその特徴の一つである。

新型コロナウイルス感染症による中断に伴い、委員会では“富士研”の在り方について再度検討を行い、理事会でも議論を重ねてきた。現状に合った新たな“富士研”の実施を検討し、2022年にはトライアルを実施予定である。

また、医学教育専門家のコースワークへの参加要件として、“富士研”または指導医講習会、あるいはカリキュラムプランニングを含む16時間以上のWSの受講者であることが求められているが、基礎系教員などが参加できるWSがないことより、「基礎系教員のためのWS」を学会主催で開催してきた。受講希望者の減少や新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止となっていたが、2022年には実施予定である。

教育業績評価に関しては、評価シートの活用状況の確認、ブラッシュアップおよび活用の推進を目指すこととしている。

副委員長：浦野哲哉、安井浩樹 委員：伊野美幸、岡崎史子、高橋弘明、田口則宏、松山泰
オブザーバー：田川まさみ

^{*1} Faculty Development and Evaluation Committee

^{*2} Rika Moriya